

【別紙様式 3】

再評価実施事業調書

番 号	2	事 業 名	道路事業		路 線 又 は 箇 所 名 等		一般国道 409 号 富里拡幅		
事 業 所 管 課			道路整備課		事 業 主 体		千葉県		
事業化年度	平成 11 年度		用地着手年度	平成 11 年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成 11 年度 令和 13 年度	再評価の理由		再々評価
費用便益比 B／C	2.7 (20.7)	総費用	165 億円 (12 億円)	総便益	453 億円 (254 億円)	基準年	令和 7 年度	供用開始 年度	令和 14 年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

東関東自動車道の富里インターチェンジに接続する一般国道 409 号では、交通集中による慢性的な渋滞が発生していることから、交通の円滑化、安全性の向上、物流の効率化等を目的として富里市七栄から成田市並木町までの延長 1.9km の 4 車線化整備を行う。

- ・ 総事業費：90.1 億円
- ・ 事業延長：L=1.92km
- ・ 事業期間：平成 11 年度～令和 13 年度

【事業の進捗状況】（令和 7 年度末） ※端数処理により合計が一致しない

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	90.1	76.9	13.2	85

【社会経済情勢等】

- ・ 富里拡幅の事業区間では、(仮) R51 交差点、R409 交差点及び富里 IC 交差点周辺で日中を通して旅行速度が 20km/h 以下となるなど、混雑が発生。
- ・ 特に (仮) R409 交差点では、朝ラッシュ時に並木南方面へ最大 380m の渋滞が発生。
- ・ 事業区間の死傷事故率 (R1～R4) の平均は 107.5 件/億台 km であり、県内平均の約 2.4 倍。
- ・ 事故類型別では追突が約半分を占め、車両相互の事故が 92%となっている。

【対応方針(案)】


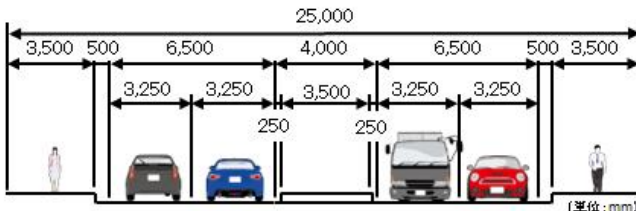
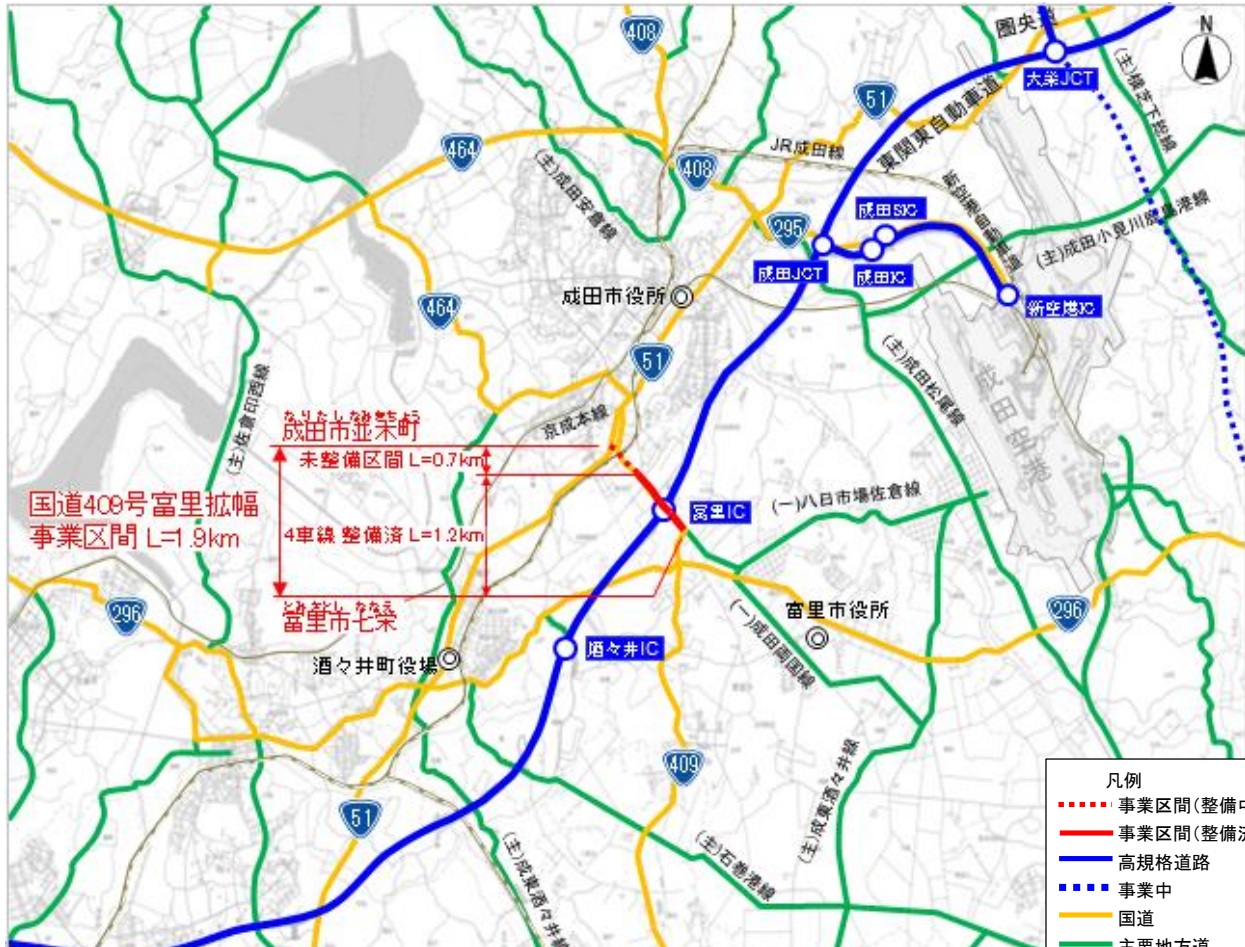
継 続

事業全体の費用便益比(B/C)が 2.7 (残事業 20.7) であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、4 車線化による所要時間の短縮、歩道整備による沿道環境の改善、製造業の支援、救急医療機関への搬送時間短縮が期待される。

事業完了目標を設定し、着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

事業概要図

番号	2	事業名	道路事業	路線又は箇所名等	一般国道409号 富里拡幅
位置図		標準横断面図			
					
平面図					

【別紙様式 5】

再評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	道路事業	路線又は箇所名等	一般国道 409 号 富里拡幅
事業化年度	平成 11 度	用地着手年度	平成 11 年度	工事着手年度	平成 11 年度
【再々評価（R2 年度）の概要】					
事前評価実施年度 （基準年）	令和 2 年度	供用開始年度	令和 9 年度	対応方針	継続
B / C	3.5 (14.9)	総費用	119 億円 (15 億円)	総便益	412 億円 (219 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業） 事前評価時の委員会の意見及び当時の状況 ・継続することが妥当である。					
再々評価時の進捗状況					
		計 画	進捗状況 (令和 2 年度末)		
	全体事業費	80.6 億円	64 億円 (79%)		
	用地取得面積	24,472m ²	17,954m ² (73%)		
	供用面積（延長）	1,920m	1,270m (66%)		
【再評価（R7 年度）の概要】					
再評価実施年度 （基準年）	令和 7 年度	供用開始年度	令和 11 年度	対応方針	継続
B / C	2.7 (20.7)	総費用	165 億円 (12 億円)	総便益	453 億円 (254 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業） 現在の進捗状況					
		計 画	進捗状況		
	全体事業費	90.1 億円	76.9 億円 (85%) (令和 7 年度末)		
	用地取得面積	24,635m ²	22,190m ² (90%) (令和 7 年度末)		
	供用面積（延長）	1,920m	1,270m (66%)		
再評価後の 経過 及び 処理状況	・令和 2 年度 再々評価（継続が妥当である） ・工事、用地交渉を継続実施				